

「佐渡にわたる」
出雲崎
屋並みせまれる露地深し。
夕日たゆたふ荒海の波
（倭をぐな）
釈 道空

地元で生きる院友神職

列島の南と北、院友2人を追う



正月の初詣に始まり祈願や祭礼など、日本人にとって神社は馴染み深い存在で、そこには常に神職の姿がある。国学院大学からも毎年、1000人を超す卒業生が神職の資格を授与され、各地の神社へと巣立っている。しかし、過疎や少子高齢化の進展といった社会情勢の変遷に伴って、地域のとりまとめ役を担ってきた神職も役割や在り方が変わってきた。

人が10社以上を兼務しているのが実情だ。「地方の時代」が叫ばれる今、院友神職はどのような想いを胸に抱いて奉仕しているのだろうか。東京・渋谷の若木が丘から巣立ち、列島の南と北、「神々が集う島」として知られる長崎県の離島・壱岐で最も古い社家を継いだ吉野理さん(平17卒・113期神)と他宗教との連携を探りつつ郷土の文化発信に力を入れる青森市の廣田神社宮司・田川伊吹さん(平20卒・116期神文)の2人にスポットを当て、創意工夫をこらしながら地方で活躍する若手院友神職の「今」を追った。

【6、7面に関連記事】



みはるかすもの

「落語の神様」と評される5代目古今亭志ん生は、無類の酒好きとして知られる。酒に酔って高座で寝てしまうなど逸話も多い▼大正12年に関東大震災が起きた時、志ん生は地面に酒がこぼれるのがもったいないと、酒屋に駆け込んで一気飲み。常人には到底真似できない▼東京帝国大学教授だった物理学者で随筆家の寺田寅彦は、関東大震災で多くの死者を生んだ火災旋風を調査した。後年執筆した随筆集の中で「文明が進めば進むほど天然の暴威による災害がその激烈の度を増す」と指摘する。文明の発達でライフラインも物流も「高等動物の神経や血管」のように繋がる現代。「神経や血管

の1か所に故障が起こればその影響はたちまち全体に波及する」と記した▼近畿地方を直撃した台風21号や北海道の地震では、神経や血管の電力が大きく故障した。国内の普及率が70%を超えるスマートフォンも充電がなくなるとは、「かまぼこ板」と化してしまう▼近年普及が進んだスマホやICカードでのキャッシュレス決済も情報を処理できなくなり、「買い物難民」が発生する事態に。企業の生産活動のみならず、電力で水をくみ上げる高層マンションで断水が起きるなど影響は大きい。追い求めてきた豊かさにはらむ脆さを突き付けられた▼「天災ばかりは科学の力でもその襲来を中止させるわけには行かない」という寺田。被災地の復興を祈りつつ、改めて災害への備えを見直さなくてはならない。

全国各地で発生した 大規模災害で 被災された皆さまへ

9月6日に発生した北海道胆振東部地震および台風21号などの豪雨災害により被災された皆さまに、衷心よりお見舞いを申し上げます。

本学学生のご家族をはじめ、卒業生、関係者の皆さま、罹災者の方々の生活が一日も早く平常に復するよう、本学としてもできる限りの支援を行う所存です。

また本学を常日頃ご支援いただいている神社の方々におかれましても、甚大な被害に遭われたこと、心よりお見舞いを申し上げます。一日も早く復興され、被災地の方々の心の支えとなられんことをお祈り申し上げます。

平成30年9月10日
国学院大学学長 赤井益久

学修支援システムを全面リニューアル

K-I-SMAPY IIがスタート

本学学生の時間割作成や授業支援、キャリアサポートなど広く活用されている学修支援システム「K-I-SMAPY」が、基盤となる学系基幹システムの移行に伴い、9月4日から新システム「K-I-SMAPY II」に変更された。

他大学に先駆けた最先端のシステムとして、平成14年に誕生した「K-I-SMAPY」。15年以上にわたって大学の教務面を支えてきたが、インターネット環境、教育環境が大きく変化する中、学生をはじめユーザーの利便性を向上させようと今回のリニューアルに至った。「K-I-SMAPY II」のURLは次の通り。

<https://ksmapy.kokugakuin.ac.jp/>

【2面詳報】

ウガンダ全権大使が 蓼科寮を視察



東アフリカ、ウガンダのベティ・グレイス・アケチ・オクロ駐日特命全権大使が8月20日、長野県立科町を訪れ本学蓼科寮や町内のスポーツ施設などを視察した。立科町は、本学卒業生でウガンダ政府公認コーディネーターに任命された奥龍将・スマイリーアース代表取締役社長（平23卒・119期日文）の提案で、2020年東京五輪・パラリンピックに向け同国を相手国とするホストタウンに登録。同国の陸上競技中長距離種目代表選手の事前合宿を予定している。

ベティ大使は、町役場での歓迎セレモニーの後、蓼科第二牧場で建設中のクロスカントリーコースや、女神湖スポーツ広場など町内のスポーツ施設などを視察。蓼科寮では、尾近裕幸理事・経済学部教授をはじめ大学関係者や合宿中の陸上競技部員らがウガンダ国旗を振って出迎え、歓迎の意を表した。

セメスター留学 13人に学習奨励金

平成29年度に英語圏・中国語圏の協定校で実施した4カ月間に及ぶセメスター留学に参加した学生のうち、高いレベルでの外国語コミュニケーション能力を獲得した13人に学習奨励金が贈られた。目録の授与式は7月11日に渋谷キャンパスで行われた。

授与式で、田原裕子国際交流推進部長（経済学部教授）は「努力をしてセメスター留学で非常に高い成果を上げたことをうれしく思っています」と英語と中国語で挨拶した。学生たちは「授業で習った単語はその日の会話で使うようにした」「将来は海外駐在を目指したい」などと語学力を伸ばすために工夫したことや今後の進路について語っていた。

10年目の 教員免許更新講習会 延べ372人が受講



教員に必要な資質能力が保持されるよう、最新の知識技能を身につける「教員免許更新制」が運用開始から10年目を迎えた。本学は、制度開始以来、毎年講習を実施している。今年は、8月6日から10日にかけて渋谷キャンパスで中学校の国語科、社会科、高等学校の国語科、地歴科を対象に、たまプラーザキャンパスで幼稚園、小学校、中学校と高等学校保健体育科の教諭を対象に講習会が開催され、延べ372人が受講した。

教員免許更新制は、平成19年の改正教育職員免許法の成立により、21年4月から導入されている。免許更新には30時間以上の免許状更新講習の受講・修了が義務付けられている。



渋谷キャンパスでは、再開発事業の一環として校地に隣接する旧専門学校の跡地を購入し、6号館（仮称）Ⅱ写真Ⅱの建設が進められている。建物は地下2階地上3階建てで、平成31年3月の竣工を目指している。

6号館は国際交流ラウンジやエクステンション事業の一環としてオープンカレッジなどを展開する予定。隣接する氷川神社の鎮守の杜を臨む自習スペースも整備される。

たまプラーザキャンパスでは、校舎の外装や外構の工事が行われることになった。竣工から35年が経過した1号館などの外装は、木材をふんだんに用いた新しいデザインにⅡ写真Ⅱ。最大10mの高差がある傾斜地に並ぶ校舎をつなぐ外構には立体通路「立体万葉の小径」が設けられ、教室、図書館にとどまらず、グラウンド、学生施設を結ぶ。同改修工事も31年3月の竣工を目指す。



7月21日に行われたミュージアムトークでは、樋口博士に師事し、今年で90歳となる下津谷達男・国学院大学栃木短期大学元教授が、師との出会いや静岡県登呂遺跡の発掘調査など目の当たりにしてきた戦後の研究史を語ったⅡ写真Ⅱ。

国学院大学博物館は、樋口清之博士の寄贈による考古資料を基にした「考古学陳列室」の創設（昭和3年）から今年で90年を迎えた。これを記念した企画展「日本文化の淵源を求めて―考古学陳列室から国学院大学博物館まで―」が7月14日から9月9日まで開催された。博物館の歴史を、考古学を中心に振り返る内容で、樋口博士の直筆原稿や、新収蔵資料で高さが1・7mを超す大型埴輪などを展示。期間中は、多くの来場者を集めた。

両キャンパスで施設の 新築・改修 31年3月竣工目指す

国学院大学博物館 開館90周年を記念して企画展



学生たちと供花神饌を作られる杉子女王殿下

供花神饌ワークショップ 杉子女王殿下をお迎えし開催 学生20人も心を込めて制作

神饌へ捧げる御花を和紙で制作する「供花神饌ワークショップ」が8月7日、渋谷キャンパスの有栖川宮記念ホールで開催された。この日に作られた御花は、石清水八幡宮（京都府八幡市）で9月15日に執行される石清水祭に奉納される。ワークショップは、本学の特別招聘教授、杉子女王殿下が総裁をお務めになる一般社団法人心游舎と本学ボランティアアステーションの共催。制作に先立ち、杉子女王殿下は「自分の手元にある御花が、神様の御花になるのだということに感激をいたしました。この気持ちをみなさんと分かち合いたいと思います。心を込めて、楽しんで作ってください」と挨拶された。



梅の花を制作する学生

御花を作る和紙は、植物由来の天然染料のみを使う古代染めの技法で染色されている。参加した20人の本学学生は、毎年12種類作られる供花神饌のうち、梅と南天の一部の制作を受け持った。ワークショップの講師を務めた染色工房「染司よしおか」の染織家、吉岡更紗さんの手ほどきで作業に着手。最初はぎこちなく手を動かしていた学生も、徐々にコツをつかむと、石清水八幡宮にまつわる古典や修学旅行の話題などで盛り上がりながら、和やかに取り組み組んだ。

南天の制作に携わった升山顕耀さん（神文4）は「南天だけに難点も多かった」と笑いを誘い、「八幡の神様に御花を捧げられるのはありがたいことです」と話していた。

国学院雑誌学生懸賞論文 佳作に3人 入選はなし

平成29年度の国学院雑誌学生懸賞論文の入選、佳作論文が決定した。今回は、第1部門（本学文・神道文化学部、別科在籍者対象）で佳作に2人、第2部門（本学大学院文学研究科、専攻科在籍者対象）で佳作に1人が選ばれた。入選は該当者がなかった。表彰式は、7月11日に文学部長室で行われた。受賞者は以下の通り（敬称略、所属は応募当時）。

第1部門＝◆佳作▼田子晃矢（史3）▼鈴木健多郎（神文3）

第2部門＝◆佳作▼山口祐樹（博後文2）

選考の経緯などは、同誌7月号に掲載されている。

ボランティアフェアを開催



学生にボランティア活動への参加を促そうと7月13日、渋谷キャンパスでボランティアステーションによる「国学院大学ボランティアフェア2018」が行われた。約20のNPO団体や行政機関、本学学生のボランティアサークルなどが出展し、夏季休暇中の短期のイベントや長期間にわたるボランティアなどの活動を紹介し、学生たちの相談にも応じた。渋谷警察署のブースでは、災害時に帰宅困難者を誘導する学生ボランティアについて、実際に着用するゼッケンを見せながら、活動内容を紹介していた。

五輪・パラまで2年 渋谷区主催イベントに出展



渋谷区が主催する文化プログラム「MERRY SMILE SHIBUYA for 2020」が8月25日、国連大学（渋谷区）で開催され、本学をはじめ区内にキャンパスを構える大学やNPO団体などがワークショップやステージでのパフォーマンスを行った。

東京五輪・パラリンピックの開催まで2年になることを記念した同企画では、年齢・性別・国籍・障害の有無を問わず、多くの人々が多様な個性の違いを知って、一緒に楽しむことがコンセプト。本学からは全学応援団がステージパフォーマンスに登場してリーダー公開を披露したほか、有志の学生たちがちょうちんの絵付け体験コーナーを出展した。来場した人たちは思い思いに絵付けをしたオリジナル提灯を作った。完成した提灯は会場内に飾りつけられ、今後、五輪・パラリンピックに向けたイベントなどでも活用される予定。

南開大学と国際シンポジウム 研究者の交流盛んに



第5回 国学院大学・南開大学院生フォーラム
東アジア文化研究 国際シンポジウム

第5回国学院大学・南開大学院生フォーラム・東アジア文化研究国際シンポジウムが7月14、15日に、渋谷キャンパスで行われた。本学の大学院文学研究科と中国・南開大学外国語学院は、平成28年に研究教育に関する学術協定を締結。毎年、若手研究者や大学院生が相互に訪問を重ねるなど交流を盛んに行っている。今回開催されたシンポジウムも連携事業の一環。

歓迎のセレモニーでは、赤井益久学長が「両校の交流は年々盛んになっている。日中両国の交流は2000年以上あるが両大学の交流は始まったばかり。これからの学術の世界の将来を展望させると願っている」と中国語で挨拶し、南開大学外国語学院の園棟院長は「両校の研究者の学術交流によって友情を深めたい」と応じた。

期間中は、両大学の教員による基調講演のほか、大学院生ら若手研究者による研究発表・討論会が行われた。

再開発進む渋谷駅周辺 新施設の活用を考える



再開発が進む渋谷駅周辺では、旧東横線渋谷駅のホームおよび線路跡地に9月、新しく「渋谷ストリーム」が開業し、隣接する渋谷川と水辺空間も整備される。新たに設けられる広場の活用と運営について考える渋谷区主催の学生ボランティアワークショップ（WS）が、6月から8月にかけて3回に分けて開催され、本学をはじめ区内に拠点を置く大学などから学生が参加した。

7月23日に行われたWSでは、東急電鉄の担当者の説明を受けながら、開業に向けて工事が進む渋谷ストリームや旧東横線線路跡地に整備された広場と遊歩道を約1時間にわたって見学した。

その後、見学した新しい広場を活用してどのような取り組みができるか意見を出し合い、来訪者や外国人観光客、地域住民の憩いの場としての活用法を考えた。

正しいアルコールとの 付き合い方を学ぶ

学生生活課が主催する適正飲酒セミナーが7月11日、渋谷区内に本社を構えるサッポロホールディングスから講師を招き行われた。セミナーには部会やサークルの代表者ら約200人の学生が参加。合宿や遠征先で、アルコール飲料を飲む機会が増える夏季休暇を前にアルコールとの付き合い方について説明を受けた。

学生たちは、酒酔いの原理や中瓶1本のビールに含まれるアルコールを代謝するために必要な平均時間が成人男性で2～3時間、成人女性で3～4.5時間であることや、アルコールの強い弱いは体質の遺伝で決まっていることなどを学んだ。

その上で、アルコール代謝を調べるパッチテストが行われ、自分自身のアルコール適性を測り理解を深めた。

万葉の花の会 200人が聴講



万葉集を通して自然や文化に親しむ「万葉の花の会」の講演会がたまプラーザキャンパスで開かれた。約200人の聴衆は講演に耳を傾けながら、万葉集ゆかりの生け花の実演や和歌に詠まれた山海の幸を使った弁当を楽しんだ。

同会は、本学教職員らがたまプラーザキャンパスに植栽した散策コース「万葉の小径」を開設したことに端を発する。

講演では、本学名誉教授の辰巳正明会長が「ほんとうの万葉の花—日本文化論のために—」、文化功労者の野本寛一・近畿大学名誉教授（昭34卒・67期文）が「花の民俗をさぐる—環境民俗学の視座から—その2」と題して話を披露するなど3氏が登壇したほか、昨年に続いて洗心流家元の鳥居茜月さんが万葉集に詠まれた秋の花で活花実演を行った。



経済学部の専門科目「経営学特論（ビジネスデザイン1）」（担当：根岸毅宏経済学部教授、齊藤光弘助教、矢嶋剛同兼任講師）では、4月から民間衛星放送のバイオニア、WOWOW（港区）と連携して、若年層が活用したい画期的なサービスや仕組みをテーマに課題解決型（PBL）授業に取り組んだ。7月9日、受講生65人が同社を訪問。事前に行われた予選を通過した6チームが、社員を前にプレゼンテーションを行った。

若年層のライフスタイルの変化や昨今のICT技術の革新を踏まえ、自分たちの感覚だけではなく、サービスの分析や調査による情報を踏まえながら、仮想現実（VR）や拡張現実（AR）を取り入れたエンターテインメント性の高いコンテンツの開発など多彩なアイデアを提案した。

同社社員による審査の結果、コンテンツの検索の精度を高める施策を提案したチームが優勝に選ばれたほか、準優勝やWOWOW賞が発表され、学生たちは互いの健闘をたたえあった。



渋谷キャンパスの石川岩吉先生の胸像

昭和20（1945）年8月の終戦直後、連合国軍最高司令官総司令部（GHQ）は4つの「教育指令」を出した。すなわち、①軍国主義と超国家主義教育の禁止を定めた「日本教育制度ニ対スル管理政策」（10月22日付）②教師及び教育関係者の教職追放と適格審査を定めた「教員及教育関係官ノ調査、除外、認可ニ関スル件」

（10月30日付）③国家と宗教の分離、信教の自由を保護する「国家神道、神社神道ニ対スル政府ノ保証、支援、保全、監督並ニ弘布ノ廃止ニ関スル件」（12月15日付）④三教科の授業を停止した「修身、日本歴史及び地理停止ニ関スル件」（12月31日付）である。

その圧迫は本学にも及び、20年12月から翌年6月まで7回にわたるGHQの将校が来校し調査が行われた。

時を同じくして、21年1月には皇典講究所が本社本庁へと発展的に解消されたことにより、国学院大学は単独の財団法人

研究開発推進機構助教 渡邊卓

新制文学部設置から70年①

戦後の苦難と新生国学院

昭和20（1945）年8月の終戦直後、連合国軍最高司令官総司令部（GHQ）は4つの「教育指令」を出した。すなわち、①軍国主義と超国家主義教育の禁止を定めた「日本教育制度ニ対スル管理政策」（10月22日付）②教師及び教育関係者の教職追放と適格審査を定めた「教員及教育関係官ノ調査、除外、認可ニ関スル件」

（10月30日付）③国家と宗教の分離、信教の自由を保護する「国家神道、神社神道ニ対スル政府ノ保証、支援、保全、監督並ニ弘布ノ廃止ニ関スル件」（12月15日付）④三教科の授業を停止した「修身、日本歴史及び地理停止ニ関スル件」（12月31日付）である。

その圧迫は本学にも及び、20年12月から翌年6月まで7回にわたるGHQの将校が来校し調査が行われた。

時を同じくして、21年1月には皇典講究所が本社本庁へと発展的に解消されたことにより、国学院大学は単独の財団法人

郷土で 地元を 活かす

院友神職奮闘記

一言で「地方」といっても千差万別。先代の急逝で宮司を継いだ事情は同じながら、九州本土から高速船で1時間かかる離島・青島の吉野理宮司と、人口30万人の中核市・青森の田川伊吹宮司を取り巻く環境は全く異なる。しかし、地域社会のまとめ役として「守り、伝える」ことへの想いは共通している。



青森市の社家に生まれ、将来は神職に就くのだろうと漠然と考えていました。神道文化学科を平成20年に卒業し、奉職したのが寒川神社（神奈川県寒川町）です。先代の父もかつてお勤めしており、父と一緒に奉職されていた方々が残っており、お世話になりました。ご縁だと思っています。奉職はわずか1年で、父が急逝したため、青森市へ戻り、平成21年6月、宮司に就任しました。当時23歳で、全国最年少だったそうです。そ

郷土の魅力伝える 祈りの場所に

青森 田川伊吹宮司(32歳、平20卒・116期神文)



く、特に8月のねぶた期間中は朝から晩まで書き通します。お守り袋もオリジナルの物があり、県内で活躍するデザイナーの手による絵柄は人気があります。今年は、郷土の文化や言葉を知ってもらおうと、青森県名産のリンゴとホタテをかたどった津軽弁のおみくじを作り、こちらも好評を得ています。

宗教の枠を超えた取り組みもしています。先の大戦では青森県人がバラオへ戦車隊として出兵し、多数亡くなりました。戦後70年の平成27年、天皇皇后両陛下がバラオへ慰霊のご訪問をされるのを前に、青森県内の方が両国国旗などの製作依頼を受けた際に、旗への御霊入れと安全祈願を任せたいだいたのをきっかけに、翌年は現地へ渡り、神仏合同の慰霊祭を執り行いました。戦争の記憶も、忘れてはならない郷土の歴史です。

廣田神社

これまで人前で祝詞を上げたことさえほとんどありませんでした。最初の数年間は大変でした。学生時代より勉強したと思います。御祭神は6柱です。このうちの1柱が進藤庄兵衛（1614～86年）の神霊で、廣田神社に唯一、祀られています。進藤は弘前藩の家老で、青森城代として商業発展や土地開拓に尽力し、現在の青森市の礎を築きました。地元の人には「青森市は歴史のない街」とよく言います。私が青森市に戻った当時、進藤を知る人は少なく、歴史の中に埋もれた存在でした。神職の役割は、人と神様をつなげる「継ぎ役」です。そして、郷土の文化や歴史に愛着を持ってもらうことも、地域に根ざす神社の大切な役割です。神道は日本文化そのものであり、郷土文化は日本文化の源流

ともいえます。神社を継ぎ、進藤の功績を広く知ってほしいと願うようになりました。そうした中、平成26年には進藤の生誕400年を記念した茶会などが、地元有志によって盛大に開かれました。メイン会場は進藤が政務を執り行った御飯屋跡（現在の青森県庁横の公園）でした。私も企画や運営に携わらせていただき、郷土の偉人への地元への関心が高まったと感じています。翌年には、東北三大祭りの一つである「青森ねぶた祭」の題材に初めて進藤を用いていただくことが出来ました。廣田神社では、そのねぶたの原画を基にした御朱印を作り、期間限定で頒布しています。おかげさまで、求める参拝者が多



く、特に8月のねぶた期間中は朝から晩まで書き通します。お守り袋もオリジナルの物があり、県内で活躍するデザイナーの手による絵柄は人気があります。今年は、郷土の文化や言葉を知ってもらおうと、青森県名産のリンゴとホタテをかたどった津軽弁のおみくじを作り、こちらも好評を得ています。



リンゴの形をしたおみくじ(右)は本物のリンゴの木にぶら下げられている。ホタテの形をしたおみくじ(左)は専用の竿で釣り上げる。いずれも青森県出身のタレント、伊奈かついさんの手による津軽弁の文章とイラストのおみくじ入り。品種はリンゴが「運アップ」、ホタテが「願風満帆」としている

箱崎八幡神社、男嶽神社ほか

長崎・杵岐で古くから続く社家に生まれました。父から「後を継いでくれ」と言われたことはなく、高校2年の時に自然と「国学院大学に進む」と決めました。小さい頃から父の背中を見続けたからでしょう。平成17年に神道学科を卒業して宗像大社に奉職し、大きな神社ならではの対外的な仕事に携わったり、世界遺産となった沖ノ島のご奉仕を経験したりと勉強になりました。父が急逝して杵岐に戻り、平成26年10月から箱崎八幡神社や男嶽神社など島内にある30ほどの神社に奉仕しています。地元の人たちとの交流にしても神社を護るにしても、宗像では分担していた仕事も島では全て一人で。協力してくれる地元の総代さんは、「宮司さん」ではなく「理くん」と呼んで家族に近い関係で接してくれます。

疎かにするわけにはいきません。しかし、後継者不足は深刻で、古くから伝わる杵岐神楽を守るにもギリギリです。社家とは無関係な後輩に「神楽になつてはどう？」と声を掛けたりもします。神道に理解を示してくれる人々の輪を広げ、取り込んでいくことも必要になるかも知れませんね。過疎化で氏子さんが減り、運営費用に事欠くことも課題ですが、神社にお金を入れてもらうことだけが収入とは限りません。「神社を生かした何か」であれば無限だと思います。今はクラウドファンディングという手法もありです。我々より上の世代だとネット社会に拒絶反応を示す人もいますので、実際に導入す



るならば、若手がバックアップして理解してもらいます。昔ながらの部分を守りつつ、変えられる部分は積極的に取り入れていかなければ神社を維持していくことは厳しいでしょう。在学中や宗像奉職時代に全国の神社で見聞を広めたので、良いところを取り込みつつ時代に合ったやり方で運営していくつもりです。

離島の篤い信仰と 伝統を守る

杵岐 吉野 理宮司(35歳、平17卒・113期神)

■杵岐の神社 杵岐で最初の神である「天比登都社」と「月読命」が男嶽神社の磐座に降臨、そこから箱崎八幡神社に遷座したとの伝承が残る。長崎県神社庁によると、島内には神社本庁の登録社だけで約150社があり、未登録社を含めるとその3倍ほどに膨れ上がるが、島内の神職は35人とどまっている。国指定の重要無形民俗文化財「杵岐神楽」や島内の著名神社に参拝する「七社巡り」の風習が残り、観光資源として注目されることから「杵岐島四十二社巡り」の冊子も用意されている。



男嶽神社の境内には、御祭神の猿田彦命にちなんだ石猿像が数多く奉納されている

宗像大社を退職して杵岐での仕事に向き合うことで「これが本当の神社の在り方かな」という点が見えるようになり、故郷に帰って手探りで奉職して4年目。キツイ仕事もありますが、氏子さんの応援が何よりの支えになっています。氏子さんからは「代々神社を伝えていってほしい」という話を聞かれます。杵岐には信仰心に篤い漁師町があり、古い信仰の形も残っているのが神社を大切にしている心根付いています。それを



人が集えるカフェを始めようと奮闘中です。業者に頼めば簡単ですが、地元との繋がりを考えて顔見知りの大工さんに教えてもらいながら作業しています。床板は同級生の実家が営む酒蔵の板をもらってきたので、焼酎がしみこんでいるかもしれません(笑)。

人との繋がりは些細なことでも広がります。大学時代に覚えたサーフィンを思ひ返りとして続けていますが、神社巡りが好きな奥さんに付き添ってきた旦那さんが、私のボードを目にして「杵岐はサーフィンが得意なんでしょうか？」と話しかけてくれました。と宮崎から電話をもらった時は本当に嬉しかったですね。「外の人に見てもらいたい、もつといいものにしよう」と地元の意識を導くことも神職の仕事だと信じています。



男嶽神社の御祭神は「導きの神」とされる猿田彦命です。神様のお導きでこの神社で多くの方と会うことができたらいいですね。(談)

生きがい講座2018 久しぶりの弓道教室

「かつて弓道をしていけれど、今は射る機会がない」という方のために、「弓道復帰プログラム」を提供します。安全な弓道場と初心・初級者向け弓具、射形診断のできるビデオ解析システムを完備していますので、本格的な弓道復帰に向けたアドバイスも行えます。

日10月6日(土) 時10時～12時 場たまプラーザキャンパス弓道場 弓道経験(有段者)のある18歳以上の方(定員15人) 申本学HP (https://www.kokugakuin.ac.jp/event/41500)、またはFAX (講座名・氏名・年齢・性別・電話番号・住所・メールアドレス明記)で、人間開発学部地域プロモーションセンターへ

人間開発学部地域プロモーションセンター (☎045・904・7707、✉kchpc@kokugakuin.ac.jp)

シリーズ講座 親子で楽しむ運動遊び①～④ チャレンジ! 器械運動⑤

お子様が運動好きになるように。将来器械運動が苦手にならないように。そして大人の日頃の運動不足の解消にも。親子で楽しく運動をしてみませんか?

日10月13日、11月17日、12月15日、1月26日、2月16日の土曜日5回シリーズ 時①～④10時30分～11時30分 ⑤10時30分～11時45分 場たまプラーザキャンパス ①～④5号館多目的 ⑤体育館内アリーナ 【定員】①～④ 15組 ⑤25人

申本学ホームページ (https://www.kokugakuin.ac.jp/event/41500)、またはFAX (講座名・氏名・年齢・性別・電話番号・住所・メールアドレス明記)で、人間開発学部地域プ

ロモーションセンターへ 人間開発学部地域プロモーションセンター (☎045・904・7707、✉kchpc@kokugakuin.ac.jp)

第10回 共育フェスティバル2018



地域の方々と「響同」を目指す人間開発学部の学生らが企画する「共育フェスティバル」を、今年度も開催します。地域の方々、特にお子さんが楽しめるイベント=写真は昨年の様子=を用意しています。ご家族でお誘いあわせの上、ご来場ください。

日10月28日(日) 時10時～16時 場たまプラーザキャンパス 料無料 申たまプラーザ事務課 (☎045・904・7700)

経済学部生を体験する1日「E-Tour」

高校生を対象に、経済学部生を体験する1日「E-Tour」を実施します。FAと呼ばれる2～4年生がアテンドし、「学部・学科紹介」「模擬授業」「学内見学」などを体験してもらいます。4年生からは「大学での学び方」「就職活動の経験」などのリアルな話も聞け、「どうして大学に行くの?」「経済学部で何を学ぶの?」「大学生の生活は?」「どんな大学生になるの?」がイメージできます。

日11月17日(土) 時いずれも11時～16時(10時45分までに120周年1号館1階ロビーに集合) 場渋谷キャンパス 対高校生 申経済学部HPのE-Tourページの申し

キャリアサポート

業界セミナー

キャリアサポート課一押し企画! 各業界リーディングカンパニーの採用担当者に業界や企業について説明していただきます。個別の企業説明会では予約が取れない超大手優良企業ばかりが参加します。企業の話聞いて興味・関心の幅を広げ志望業界を見つけたり、業界の理解を深めていくために、積極的に参加しましょう。

日10月15日(月)～12月21日(金) (月・火)・(木)・(金): 5限または6限、(水): 3限または4限 ※企業の参加日時はK-SMAPY IIで確認してください。 対1～3年生、大学院1年生

LLC

TOEIC® 学内テスト

LLCが団体受験特別制度(IP: Institutional Program)として実施するものです。公開テストとIPテストのスコアの有効性はTOEIC主催団体により同一とされています。 ※企業、大学等により基準が異なる場合があります。

日10月27日(土)

申込みフォームから申し込む 申経済学部資料室 (✉ecosiryo@kokugakuin.ac.jp)

国際シンポジウム 「日本文化としての宗教 —海外の授業から—」

「日本文化としての宗教」について、ロンドン大学のアラン・カミングス氏、カイロ大学日本研究センターのワリード・ファルーク・イブラヒム氏が報告。コメンテーターとして九州大学の飯嶋秀治氏、東北大学の木村敏明氏が

後期スタート・業界研究講座

いよいよ本格化する就職活動。どのように活動すれば良いか不安ではありませんか? この講座では、効率的な動き方や業界研究についてお話しします。「業界研究をしると言われても何を調べればいいのか分からない」という方はぜひ参加してください。この講座に参加した学生には各業界のトップ企業を網羅した「企業大研究」をプレゼント!

【渋谷キャンパス】 日・時10月9日(火)6限、10日(水)3限・5限、11日(木)6限 【たまプラーザキャンパス】 日・時10月10日(水)13時5分～14時35分・14時50分～16時20分 対3年生・大学院1年生

※詳細確認・申し込みはK-SMAPY IIより行って下さい

時14時30分集合、17時15分散(試験時間は2時間)

場渋谷キャンパス(教室は試験1週間前をめどにお知らせします)

料3500円 対本学在学学生 申後日決定する申し込み期間中に自動証紙発行機で証紙を購入し、各キャンパスのLLCに提出 申渋谷: LLC (百周年記念館) 申たまプラーザ: LLC YOKO HAMA OFFICE (1号館)

お迎えします。司会は平藤喜久子・研究開発推進機構教授が務めます。

日10月21日(日) 時13時～18時 場AMC 5階会議室06 料無料 申本学HPの研究開発推進機構事務課問い合わせフォーム(https://www.kokugakuin.ac.jp/inquiry)から問い合わせ内容を「研究に関すること」を選択して申し込む 申研究開発推進機構事務課 (☎03・5466・0104)

本紙へのご感想をお待ちしています

「国学院大学学報」では、読者の皆さまからのご意見・ご感想を募集しています。掲載された方には、本学オリジナルグッズを進呈いたします。ご投稿は以下の要領でお願いします。 ①今号の満足度5段階(低1～5高) ②本紙へのご意見③住所④氏名⑤所属など(在学生の場合) ⑥学号・学年、保護者、院友(本学卒業生)、本学・本法人教職員、その他(いずれか)を明記の上、ハガキ・FAXで国学院大学広報課(連絡先は1面参照)までお送りください。また、QRコードよりEメール作成画面を開くことができます。なお、お送りいただいた方の個人情報法に基づいて取り扱いいたします。

※お寄せになられた原稿・お便りは返却いたしません



ことばの意味―「生きる」―

若木が丘 だより

文学部教授 久野 マリ子



ことばには意味・用法がたくさんある。母語話者には母語だからこそできる「ことばの意味」を考える楽しみや不思議さ、面白さがある。あまり辞書を引くことがない語「生きる」を例に考えてみると、いかに多くの意味の説明があるかわかる。手元にある小型の国語辞典を引いてみても、その引用だけで与えられた文字数を超えてしまう。どれも既に知っていて使える意味・用法ばかりである。 ところが、これだけたくさん辞書の意味・用法を知っていたとしても、日本語の「生きる」を自在に使いこなせるかというところが試しに、次の文の「生きる」は、国語辞典のどの意味に該当するのだろうか。用例は、Facebookの記事を参考にした。 「こう生きなさい(宗教)」、「なぜ生きるのか(哲学)」、「生きるとはどのような状態か(科学)」、「もしこんなふうに生きられたら(文学)」、「これがそが生きる形だ(芸術)」、「それが生きた証だ(歴史)」 「死なないという意味」、「兵庫県播磨州方言で今にも死にそうな状態を「この魚は生き生き、こんぼや(この魚は瀕死の状態である)」。こんな複雑な意味が瞬時に理解できる母語話者の言語運用能力はたいしたものだと思う。また、「生きる」以外にもこんな例ならいくつも見つけられる。これほどの意味・用法を日本語学習者が理解しようとしたら、また逆にこれほどの外国語の能力を持つとしたら、どんなにその努力が必要になるのだろうか。

i インフォダイジェスト

…在学生 …保護者 …卒業生 …一般 …受験生
内容 日にち 時間 場所 対象 申し込み 料金 問い合わせ

大学からの お知らせ

大規模災害 学費減免制度募集

本学学生で、災害対策基本法に定められた災害により被災し、条件を満たす方を対象に大規模災害学費減免制度の募集を行います。対象となる大規模災害は、大阪府北部地震、西日本豪雨、北海道胆振東部地震など。募集対象など詳細は募集要項などで確認を。

【願書配布】 10月31日(水)まで
【願書受付】 11月8日(木)・9日(金)
時 学生生活課・たまプラーザ事務課窓口事務時間内
固 ▶ 学生生活課
(☎03・5466・0146)
▶ たまプラーザ事務課
(☎045・904・7705)

国学院大学法学会 懸賞論文を募集

法律学・政治学に関するテーマで懸賞論文を募集します。優秀な論文には賞状が授与され副賞(最優秀賞: 図書カード10万円分、優秀賞: 同5万円分、佳作: 同3万円分)が贈られます。

対 本学法学部の在学生
申 平成31年1月8日(火)15時までに、論文(A4サイズ1ページあたり40字×30行の横書きで脚注を含め10~40枚。本文の前に目次を付ける)と800~1000字程度の要旨を2部ずつ、表紙と要旨(Excel形式)と原稿(Word形式)の2つのファイルを保存したUSBメモリを、法学部資料室へ提出してください。
※政治専攻のスタディ・ペーパーで作成した論文は応募できません
固 法学部資料室(若木タワー7階)
(☎03・5466・0304)

国学院大学経済学会 懸賞論文を募集

経済学部各学科の各コース内容に関

博物館

料無料
時 10時~18時(入館は17時30分まで)、特別展の期間中は休館なし

特別展「キリシタンー日本と キリスト教の469年ー」

天正15(1587)年の豊臣秀吉による最初の伴天連追放令以降、キリシタンは江戸幕府の禁教令などの締め付けを受け、潜伏して信仰を守るか棄教するかを選択を迫られました。本展では、海外の諸文化を取り入れてきた日本において、いかにしてキリスト教が根を下ろそうとしてきたかを辿ります。
※本展は西南学院大学博物館(福岡市)との合同展示です
日 9月15日(土)~10月28日(日)
場 博物館企画展示室
▶ シンポジウム「島原・天草一揆とその後」

するテーマで懸賞論文を募集します。優秀な論文には賞金(最優秀賞5万円、優秀賞3万円、佳作1万円)が贈られます。

対 経済学部在学生の個人またはグループ(3人以内)
申 12月3日(月)~7日(金)正午(期日厳守)の期間に、論文(A4サイズ1ページあたり1200字程度で10枚以上。600字以内の要旨を本文の前につけたもの)2部と経済学部HP(<https://www.kokugakuin.ac.jp/news/77788>)からダウンロードした受付票・個人情報利用承諾書、Word形式の論文を保存した記憶媒体(CD-R/RW・DVD-R/RW・USBメモリのいずれか)を経済学部資料室へ提出してください。
固 経済学部資料室(若木タワー9階)
(☎03・5466・0342)

国学院雑誌 学生懸賞論文の募集

未発表の学術論文であれば題目は問いません(卒業論文も可)。優秀な

木村直樹氏(長崎大学)が「島原・天草一揆と牢人」、大橋幸泰氏(早稲田大学)が「諸藩による島原天草一揆の記録と記憶」、安高啓明氏(熊本大学)が「踏絵の変容と潜伏キリシタン」と題して講演。定員300人。
日 10月6日(土)
時 13時~16時40分
▶ シンポジウム「考古学が明かす新たなキリシタン像」

深澤太郎・研究開発推進機構准教授が「日本における宗教考古学とキリスト教」、今野春樹氏(東京芸術大学)が「キリシタン考古学の枠組み」、大石一久氏(大浦天主堂キリシタン博物館)が「天正遣欧使節と千々石ミゲル」と題して講演。定員300人。
日 10月13日(土)
時 13時~16時40分
▶ 特別講義「生月島のかくれキリシタン」

中園成生氏(平戸市生月町博物館・島の館)が講演。定員300人。
日 10月27日(土)
時 13時~16時45分

共通
※上記シンポジウム・特別講演は事前申込みが必要
場 AMC常磐松ホール
固 博物館のHP(http://museum.kokugakuin.ac.jp/event/detail/2018_kirishitan_symposium.html)から

特集展示

舞楽に関連する絵巻物と装束を展示します。
日 9月15日(土)~10月28日(日)
場 博物館神道展示室

※博物館関連イベントの問い合わせは
☎03・5466・0359

論文には賞状と副賞(入選5万円、佳作3万円)を贈呈し、国学院雑誌への掲載を予定しています。

対 ▶ 第一部門=本学文学部・神道文化学部・別科在籍者
▶ 第二部門=本学大学院文学研究科・専攻科在籍者
申 平成31年3月30日(土)までに、論文(400字詰め原稿用紙換算40~50枚で、800字程度の要旨を添付)の原稿とテキストデータを、文学部資料室国学院雑誌編集係へ提出してください。
固 文学部資料室(若木タワー11階)
(☎03・5466・4813)

イベント 30

経済学部シンポジウム 仮想通貨とは何か

ニュースで取り上げられる事も増えた「仮想通貨」についてのシンポジウム(経済学部主催、院友経済会・

経済学会共催)です。本学教員に加えて株式会社オウケイウェイヴ代表取締役会長の兼元謙任氏をスピーカーに招き、仮想通貨についての講演と質疑応答を行います。経済学部学生のほか、他学部学生や院友にも公開(入場自由)しますので、ぜひご参加ください。

※シンポジウム終了後、午後1時30分から1104教室で院友経済会平成30年度定例総会を開催します。会員である経済学部卒業生のご参加をお待ちしております。詳しくは大学及び院友経済HP(<http://www2.kokugakuin.ac.jp/inyeconomics/>)でお知らせします
日 10月20日(土)
時 10時30分~13時
場 渋谷キャンパス1105教室
固 経済学部資料室
(☎03・5466・0342、
✉ecosiryo@kokugakuin.ac.jp)

平成30年度

ホーム

カミング

デー

10月20日(土)

渋谷: 11時スタート

※たまプラーザキャンパス(人間開発学部卒業生対象)は11月10日(土)に実施します

もっと日本を。もっと世界へ。

国学院大学

事前予約メニューは、お申込フォームから

対象 院友(卒業生)とご家族・ご友人 参加費 無料

予約方法 大学ホームページ ▶ 卒業生 ▶ ホームカミングデー ▶ 事前申込

ホームカミングデー詳細ページ <https://www.kokugakuin.ac.jp/graduate/homecomingday>

<https://www.facebook.com/kokugakuin.hcd/>

渋谷キャンパス
〒150-8440 東京都渋谷区東4-10-28
校友課 ☎03(5466)0131 hcd@kokugakuin.ac.jp

たまプラーザキャンパス
〒225-0003 横浜市青葉区新石川3-22-1
たまプラーザ事務課 ☎045(904)7700
hcd@kokugakuin.ac.jp

日々の積み重ねがチームを強く ——国学院らしさ、で1部昇格目指す

ラグビーフットボール部 伊藤護監督

平成23(2011)年5月から国学院大学ラグビーフットボール部(以下、ラグビー部)の監督を務める伊藤護氏。現役時代はスクラムハーフとして東芝府中(現・東芝ブルーパス)に所属し、日本代表としても活躍した。本学ラグビー部は現在、関東大学ラグビー・リーグ戦グループ2部で戦っており、1部昇格を目指している。7年をかけて作り上げてきたチームの姿と、指導者の一人として来年に控えたラグビーW杯日本大会への思いを聞いた。



——監督就任は、3部に降格した直後。チームの雰囲気は

伊藤監督(以下、伊藤)：ラグビーを楽しんでいる学生が少なく、練習に対する主体性もあまりなかったです。生活の部分では、寝坊や遅刻が多く、セルフマネジメントができていないと感じました。まずは基本的な部分からの見直しが必要だと考え、世界のラグーマンに必要な「品位」「情熱」「結束」「規律」「尊敬」の5つの要素を浸透させていこうと思いました。

——就任したシーズンに2部復帰。次の目標は1部昇格ですね

伊藤：今シーズンの目標は「1部への入れ替え戦出場」。そのためには2部で2位以内に入らなければいけないので、具体的な目標を設定しやすいです。9月16日からいよいよリーグ戦が始まりますので、応援をよろしくお願いたします。

——2015年のW杯イギリス大会では、日本代表が大

活躍しました

伊藤：ヘッドコーチを務めたエディ・ジョーンズ氏は背の低い日本人が世界で勝つために、低くて速い、機動力のあるタックルに磨きをかけたそうです。日本人の強みを生かしたプレーで強豪の南アフリカに勝ったことは、小柄な選手が多いわれわれのチームにも夢や目標を与えてくれました。

——来年のW杯日本大会に向け、見どころは

伊藤：まずは細かいルールを気にせず、体と体がぶつかる音、選手が叫ぶ声といった迫力を楽しんでください。今年8月末からは各地で社会人ラグビー「トップリーグ」の試合が始まっており、11月には世界ランク1位のニュージーランド代表と日本代表のテストマッチが東京都内で行われます。一人でも多くの方がラグビーに、そしてW杯に関心を持ってくれたらうれしいですね。

強化部会主なスケジュール(9~11月)

硬式野球部 = 東都大学野球秋季1部リーグ戦 対中央大①(10/2(火)11:00・神宮球場)、同②(10/3(水)13:30・同)、対亜細亜大①(10/9(火)10:30・同)、同②(10/10(水)11:00・同)、対東洋大①(10/23(火)12:00・同)、同②(10/24(水)12:00・同)

柔道部 = 平成30年度全日本学生柔道体重別選手権大会(9/29(土)~30(日)・日本武道館)、平成30年度全日本柔道学生体重別団体優勝大会(10/20(土)~21(日)・ベイコム総合体育館(尼崎市))、平成30年度講道館杯全日本柔道体重別選手権大会(11/3(土)~4(日)・千葉ポートアリーナ(千葉市))

陸上競技部 = 第95回東京箱根間往復駅伝競走予選会(10/13(土)9:35・陸上自衛隊立川駐屯地~立川市街地~国営昭和記念公園)、秩父宮賜杯第50回全日本大学駅伝対校選手権大会(11/4(日)8:05・熱田神宮西門前(名古屋市)~伊勢神宮内宮宇治橋前(伊勢市))

蹴球部 = 東京都大学サッカー1部リーグ戦 対上智大(9/30(日))、対成蹊大(10/7(日))、対東京経済大(10/14(日)) ※時間、場所は未定

卓球部 = 第85回全日本大学総合卓球選手権大会・個人の部(10/25(木)~28(日)・ベイコム総合体育館(尼崎市))

ラグビーフットボール部 = 関東大学ラグビー・リーグ戦グループ2部 対国士舘大(10/7(日)12:00・立正大G)、対朝鮮大学校(10/14(日)12:00・関東学院大G)、対関東学院大(10/28(日)14:00・国士舘大G)

学生記者が行く!

学報の"裏側"に迫る

サンケイ総合印刷

START

普段手に取っている本や雑誌、そして今まさに読んでいる国学院大学学報などの出版物は長い道のりを経て読者の手元に届く。今回、学生記者は本紙をはじめ数多くの出版物の印刷を手掛けるサンケイ総合印刷(鶴田東洋彦社長)の川口泰弘工場長の案内で、埼玉県戸田市の印刷工場を突撃取材した。

[取材・柳下、撮影・本間]

企画
紙面に掲載する記事の企画を練る。



印刷は繊細さが求められる仕事

印刷1 製版
送られたデータを基にアルミ製の刷版が作られる。完成した刷版は輪転印刷機に設置される。



印刷4 折り出し



印刷された一枚続きの用紙は折り機で畳まれ、タブロイド判の大きさに裁断される。紙面の左右がギザギザしているのは裁断する刃がノコギリのような形状をしているため。

印刷5 検紙



印字の色の乗りは印刷機の稼働時間や紙の質感、天候などによって変化する。印刷中は全ての学報の印字が均一な色味になるように輪転印刷機の回転数やインキの量を一括で管理する検紙台に検紙員が立ち、常に微調整を行っている。また10分ごとに仕上がった学報を肉眼で見ても、紙面に色合いの変化が起きていないか確認している。最後には人の目が頼りとなるのだ。

印刷3 印刷



印刷が始まると、巻取から用紙が輪転印刷機へと引き込まれていく。用紙にはインキが転写され、真っ白の一枚続きの紙に文字や写真が描き出されていく。

印刷2 給紙



「巻取」と呼ばれる大きなロール紙が輪転印刷機に設置される。約2万部の学報には重さ約1トンの用紙が必要となる。

取材
対象者に取材。記事を書き写真を撮る。

制作
記事・レイアウトを制作。印刷工場へとデータで送られる。

GOAL 読者の元へ

約2万部の学報は1時間半ほどで印刷を終え、読者の元へと運ばれていく。印刷工場での作業の多くは機械によって自動化されている。しかし、質の高いものを生み出すためには人間による繊細な作業や確認が欠かせない。川口さんから印刷のプロたちは印刷機や紙のわずかな変化を感じ取って調整を行っている。「質の高い印刷物を作ることで紙媒体の魅力を手にとって感じてほしい」。そう話す川口さんからは印刷に対する強いこだわりを感じた。

柔道部 東京学生 藤阪選手が優勝 全日本学生に7人出場へ

東京学生柔道体重別選手権大会が9月2日、日本武道館で行われた。柔道部の選手では、男子66kg級で藤阪泰恒選手(健体4)が優勝、同81kg級で長澤大雅選手(健体2)が準優勝だった。66kgの本学学生の優勝は、昨年度の久家寛己選手(健体4=当時)に続いて2年連続。

この他、上位入賞や代表決定戦を勝ち抜いた5人が、9月29、30日に日本武道館で行われる全日本学生柔道体重別選手権大会に出場する。

柔道部 川上コーチ、院友・北野選手 全日本実業で3位

第48回全日本実業柔道個人選手権大会が8月25、26日にベイコム総合体育館(兵庫県尼崎市)で行われた。男子90kg級に、柔道部コーチの川上智弘選手、院友の北野裕一選手(パーク24、平25卒・121期経営)が出場し、3位入賞を果たした。川上選手は平成28年の同大会男子81kg級で準優勝を果たして以来、北野選手も28年大会90kg級で3位に入ってから好成績となった。

これにより両選手は、今年11月に千葉ポートアリーナで行われる講道館杯全日本柔道体重別選手権大会の出場権を獲得した。

卓球部女子 全国大会で初のベスト8

全日本大学総合卓球選手権大会・団体の部が7月12日から15日まで墨田区総合体育館(東京都)で開催され、卓球部女子が創部以来初となるベスト8に入った。

予選リーグを1位で通過した同部は、決勝トーナメント2回戦で前年度入賞の朝日大学に対し、1-2の劣勢から塚本佳苗選手(日文2)が逆転で勝利。続く試合も長尾真由選手(経ネ4)が熱戦を制して3-2で勝利し、ベスト8となった。

男子も予選リーグを通過し、決勝トーナメント2回戦では春のリーグ戦で敗れている埼玉工業大学と対戦。吉田朋弥選手(日文4)が、中国人留学生に勝利するなど熱戦を繰り広げたが1-3で敗退し、6年連続のベスト16となった。



剣道部 ロシアの剣道愛好家と交流

日露青年交流センターなど共催の日露青年交流事業の一環として7月10日、11日、ロシアから来日した剣道愛好家25人が来校した。本学剣道部の学生たちと合同稽古を行ったほか、植原吉朗人間開発学部教授・剣道部長による講義や歓迎セレモニーなどが行われた。

合同稽古では、植原部長、林田光弘総監督の指導で練習を行い、日露の剣士たちは大きな声を出し竹刀を合わせた。



KOSPIRITS

木を倒し、森を守る！ 間伐活動15年目の夏 — 森木会

間伐とは、木々で混みすぎた森林の立木を間引く作業。この作業によって、森林に日が差し込み、樹木の成長の助けとなって、豊かな環境をつくる。本学公認サークル「森木会」は間伐体験ツアーを、NPO法人紫波みらい研究所の方々とともに、毎年8月下旬に岩手県紫波町で実施している。

今年で15年目を迎えた間伐体験ツアーの参加者がこの活動の何に魅力を感じているのか取材した。

〈取材・本間〉



間伐は紫波町上松本地区で8月25、26日に行われ、学生14人(初参加10人)、卒業生・教職員14人が参加した。

5名前後の班に分かれ水分森林づくり推進協議会の方々から道具や安全指導を受けながら、直径20cm程度の木を倒していく。

作業前の森林は杉が多く生え、枝葉が日の光を遮っていた。植物の成育に欠かせない日光が十分に差し込まない状態にしておくと、木材となる木が育たなくなってしまう。間伐はこれらの木を正常に育たせるため、間引きする木を選定する。紫波町では間伐で切り倒された木は砕いてペレット状にし、公共施設の暖房などの燃料として利用している。

作業に使える道具は鉋と鋸のみ。鋸を引いて木を切るが、刃が引っかかることもあり参加者は一苦労。「木の真ん中に切り進むほど、刃が重たくなり腕が疲れたが、その分強い達成感を得ることができた」と小宮千穂さん(法1)は話す。

倒した木は2mずつに切りそろえ、搬出しやすい場所までバケツリレー形式で運ぶ。参加者は不慣れな道具やずっしり重たい丸太の運び出しに悪戦苦闘しながら、間伐作業の大変さを身をもって体験した。

森木会の会長を務める勝村深太さん(史2)は「間伐作業には達成感がある。東京で生まれ育った自分にとって、紫波町は帰ってくる場所になった。ここで東

京の良さを改めて感じるようにもなった」と話す。

参加学生の9割は関東出身。初体験の現場環境は都会で味わえない疲労感もある。しかし、作業後、切り株を囲んで空を見上げると、そこにはポッカリと空間が。日が差し込んでくるのを目の当たりにし、自分たちの手で森林成長の手助けができたことへの達成感を得ていた。

また、間伐作業を通して、参加者同士の交流が深まっていくのもこのツアーの魅力の一つ。遠い土地の人々、年の離れた卒業生と励まし合い、木の切り口の美しさを褒め合ったりすることで世代の壁を越えて親睦を深めていくことができる。

厳しい作業ながら、15年間続けることができたのは、これらの魅力が支えてくれたおかげなのだ。



ソフトテニス部男子 首都リーグ1部で優勝

首都学生ソフトテニス秋季リーグ戦が9月3日から5日の3日間、千葉県白子町で開かれた。3部から構成されるリーグの1部に所属する男子は、4勝1敗の勝ち点4で2年ぶりに優勝した。1部所属の女子は4勝1敗で勝ち点4を挙げたが準優勝だった。

男子のダブルス選手権には、所属各校から160ペアがエントリー。濱野達哉選手(健体3)・三輪航平選手(史2)ペアが準優勝、小出尚典選手(史1)・藤木敦也選手(神文1)、新沼稜大選手(初教1)・佐藤大和選手(健体1)の2ペアが3位となった。女子ダブルスは、同部から出場した4ペアのうち3ペアがベスト16に入った。



K:DNA——創立136年目を迎えた国学院大学の遺伝子…個人・個性を尊重する校風 若いエネルギーが未来を変える

●編集 総合企画部広報課/学生アドバイザーメディアチーム [尾澤桃子(法4)/本間由(日文4)/柳下桂一郎(史4)/後藤哲治(日文3)/山本莉紗子(外文3)/石原礼菜(日文2)]

柔道部

全日本ジュニア 66kg級 相田選手優勝 81kg級 長澤選手準優勝

ジュニア日本一の相田選手(左から2人目)



準優勝の長澤選手(右)

全日本ジュニア柔道体重別選手権大会が9月8、9日に埼玉県立武道館で行われ、男子66kg級で相田勇司選手(法1)が優勝、81kg級で長澤大雅選手(健体2)が準優勝と活躍した。

ノーシードから勝ち進んだ66kg級の相田選手は、準決勝で延長の末、一本背負投で優勢勝ちを収めるなど次々と全国の強豪を退けた。決勝では大内刈りでポイントを奪い優勢勝ち。ジュニア日本一の座に登りつめた。同

階級に出場した新井雄士選手(史1)は2回戦敗退だった。

前週の東京学生柔道体重別選手権大会でも準優勝の長澤選手。この日も1、2回戦と一本勝ちで勝ち進み好調さをうかがわせた。延長までもつれた決勝ではポイントを奪われ、惜しくも敗れ2週連続の準優勝となった。

相田選手は、パハマで10月17日に開幕する世界ジュニア選手権の代表に決定した。

速報 硬式野球部

東都大学野球開幕 エース好投 白星スタート

9月1日、東都大学野球秋季1部リーグが開幕した。春季2位の本学硬式野球部は、平成22年秋以来の優勝を目指す。第2週(9月11日)から対戦カードが組まれた同部は立正大学と対戦。1回戦では、野球大学日本代表(侍ジャパン)に選ばれた清水昇投手(日文4)が先発し、六回途中まで一本の安打も許さない投球



五回表、右中間に先制の適時二塁打を放った工藤選手

でスコアボードに0を並べた。

清水投手を援護したい打線は五回に敵失と安打で一死二・三星の好機を作り、2番・工藤陽平選手(哲4)が右中間に適時二塁打を放ち先制点を挙

げた。八回には8番・伊藤雅人選手(経ネ3)の内野安打の間に走者の戸堀敦矢選手(健体2)が二塁から一気に本塁を突き、貴重な追加点を挙げた。

清水投手は九回に本塁打で1点を失ったが、3安打1失点で完投勝利。初戦を白星で飾った(3-1)。

続く2回戦(12日)は、四回に1点を先制するも、リリーフ陣が粘れずに1-2で逆転負け。3回戦も六回までに4点を奪われ1-4と



1回戦で3安打完投勝利の清水投手

リードを許したが、4番・鎌仲純平選手(健体3)の2点適時打などで同点に。九回には鎌仲選手に決勝点となる適時三塁打が飛び出し、5-4で接戦を制した。

清水投手 世界相手に力投

侍ジャパンに選出された硬式野球部の清水昇投手(日文4)は、オランダで行われた第29回ハーレム・ベースボールウィーク2018(7月13~22日)で、中継ぎとして3試合に登板。1勝を挙げた。日本代表は開幕から7戦全勝で、12大会ぶり4度目の優勝を遂げた。

博物館 No.15 学芸員の資料ファイル

時代: 江戸時代 [文政11 (1828) 年]

本資料は、舞楽の装束や面を着けた舞人を描いたもの。江戸後期の文政11(1828)年、「近藤有等」の識語があります。東遊や納蘇利、胡蝶など各演目の舞人の図像を中心に、装束の文様・彩色の説明などが詳細に記されています。

舞楽とは、主に古代に中国大陸や朝鮮半島な

今月の資料

ぶがくずかん 舞楽図巻

どを経由して日本に伝来した楽曲・舞踏で、宮廷儀礼を中心に、寺院の法会や神社の祭祀で奏されました。東遊など日本伝来の国風歌舞も、本資料のように舞楽に含めることがあります。

展示案内: 本資料は、特集展示「舞楽」(9面参照)でご覧いただけます。

ウェブサイト案内:

<http://museum.kokugakuin.ac.jp/>

